

サンケン環境 健康月報

2026年1月

2025年12月

合併号

第1、近況、雑感

1. なまけものの老人の月報は、ついに2ヶ月合併号となりました。人はこうして老いて枯れていくのかと、89歳でこの世を去った人のことを回想しています。
2. 戦争の世紀から戦争のない新しい21世紀への期待もむなしく、4分の1を経て、人間のあさましい欲を知らされた25年がお終いです。何で人間はこれほど駄目な種となり下がったのかと怒り心頭の毎日、何をどう反省すべきかを悩みながら、我が<MINERA21>を少しでも健康に役立てる方に届けたいと頑張っている昨今です。
3. クマの市内探訪が少なくなり考えたのが、奴らは銀杏を食べるだろうかとの疑問。たぶん生食では相当抵抗があって、都心に来ることがないのは幸いですが、その銀杏は今年大不作。樹齢130年になる3本のイチョウの木の所有者となって35年、年に100kg以上採れたのが、今年はほぼ零。天候異変はこれまであったが、こんな不作は初体験。この神木にも異変が起きているのだろうか。
4. 若い頃、苦しみながらも寺山修司と語り合った東京での貴重な体験は、かの三菱財閥の始祖、岩崎弥太郎の湯島天神の向かいにある広大な別邸に住み、フランク・ロイド・ライトが設計した建築物に入りし、海外旅行することなしに西洋文化の粋を日常の生活に学び取ることが出来たほか、広大な邸内には銀杏の大木があちこちにあって、山ほどの銀杏を収穫し空腹や酒のつまみに利用できた2年でもありました。歴史上は一度地上から姿を消したこの銀杏は、化石の中に取り込まれていたのが再び地上によみがえった話は全卓樹先生の本で学びました。大事に残したいものの1つです。
5. この岩崎別邸は、戦後進駐軍から最高裁判所が払い下げを受けて、裁判所書記官研修施設として利用してきたもので、ここでの2年間は法律だけでなく、今泉篤男(現代美術)、島田謹二(西洋文学)、有坂愛彦(現代音楽)、郡司正勝(演劇)、秋山虔(近代文学)、などの講義で直接身近に教養を深めることが出来、今日までの考え方、本の読み方を教わり、自分なりの美学を失わず生きてこられたのだと感謝の気持ちで涙ぐむのも、老いたためかも知れません。
6. 12月、年末助け合い、炊き出しの記事の多くはいつも私を暗くする。10年位、余市の農作物を東京へ送ったことがあるが、こんなことで人間の助け合いが出来ているのだろうか、誰から何かを助けなければならぬのか、本当に人を助けることができるのか、他利学の館岡先生が名酒持参で札幌に来てくれて、楽しい忘年会となりました。
7. 街でジングルベルを聞かなくなつて久しいが、冬至のルーツを教えてくれるクリスマスの集いに誘わされて上京。「渦巻の芸術人類学」を青土社から出版した鶴岡真弓さん(多摩美大名誉教授)から新著が送られてきて、ケルト・日

本・世界観の講演とクリスマスを祝う集いにも呼ばれ、若返った一夜を過ごすことが出来ました。共に<MINERA21>の愛用者である緒原ダーナさんのドラムを初めて聴くことができました。外遊客と共に演した方よりは上手でした。

8. 戦後 80 年、沖縄・日米安保・原爆・原発、どれも解決しないで本当に戦後と言えるのか、あの戦争体験はわずかだが、この国で80年生きてきた人間としてそんな記念日でくくられてたまるか、と叫びたいが、数字合わせで80周年式典をやればそれで済む訳にはいかないのだ。
9. さて新年、何故に目出度いと挨拶するのか、考えたことも無い年寄りだが、ウマ年だから上手くいけば良いが、母が死ぬまで気にしていた「ヒノエウマ」、火災が多い年とか、早々に静岡・山梨の山林火災報道。当社の山林にも保険をかけるべきか考えながら、皆さん雪中投票で風邪をひかないように、ウマく頑張りましょう。

第2、 今月の報告文

- ・「2025 年の勝者、実は中国」（日経ビジネス 26.1.12）

第3、 今月の再読本

- ・ 「習近平「反日」作戦」 中国「機密文書」に記された危険な野望
(相馬勝、2015.7.11、小学館 1,500 円外税)
- ・ 「中国共产党 支配者たちの秘密の世界」
(リチャード・マクレガー、2011.6.6、三陽社 2,300 円外税)
- ・ 「中国人の世界乗っ取り計画」
(河添恵子、2010.4.16、産経新聞出版 1,300 円外税)
- ・ 「中国農民はなぜ貧しいのか」 驚異的な経済発展の裏側で取り残される農民の悲劇
(王文亮、200.7.30、光文社 1,500 円外税)
- ・ 「なぜ中国で失敗するのか」 戰略ビジネス・ストーリー
(藍正人、2004.11.11、ダイヤモンド社 1,600 円外税)

第4、 今月のことば

- 嘘には三種類あって、嘘、真っ赤な嘘、そして統計である。(ベンジャミン・ディズレーリ)
- 我々は何処から来たのか。我々は何者であるのか。我々は何処に向かうのか。(ゴーギャン)
- 人間は鳥から飛行を学んだのだから、飛べなくなった鳥に飛行を教えるのは、我々の義務ではないかと感じたのです。(リッシュマン)

2026 年 1 月 15 日

サンケン環境株式会社
代表 山形 健次郎
(携帯:080-5538-2918)